

まちづくりの拠点「奈良町物語館」

企画～現状「まちづくり活動拠点」

2004年10月



(社)奈良まちづくりセンター

理事 上嶋晴久

(1)奈良町物語館 改修物語

この物語は、私達(奈良まちづくりセンター会員)が奈良町物語館として改修工事を進めた中新屋町の町屋のオーナーで会員のM氏が1993年、会員で建築家のK氏の協力によって独自に貸店舗としてこの古い町屋の改修計画を進めていた時から始まった。

筆者自身、K氏に協力を求められ一緒に既設建物の調査を行っていた時の事である。彼が言った。「今計画しているこの町屋の2階に奈地研があったら良いのにね・・・」この言葉からすべてが始まったと理解している。奈地研とは、奈良地域社会研究所の略、奈良まちづくりセンターの前身で今から25年前に奈良町で設立された時の名前であり彼自身、奈地研の時代から創成時メンバーと共にまちづくりをやってきた一人であった。M氏とK氏が独自でこの町屋の改修計画を進めていた頃、奈良まちづくりセンターでは事務局の移転話しが持ち上がっていた。花芝町から北室町に移って数年、家主にも事情があり、何年も留どまる事が出来ないかも知れない。永続的に事務局を置くには少し手狭である・・・

では、どこに移る・・・?「社団法人として、対外的にもきっちりした所に移るべきだ、ビルの中でも良いから便利な所にするべきだ又、以前から話しがあった所で、北室町の奈良まちづくりセンター事務局(1993年当時)の筋向かいにある宮島家を借りる事が出来ないだろうか」等、理事会において活発な論議があった。

そのうちにM氏の計画が理事会で知られる所となり、ぜひ奈良まちづくりセンターで借りたいという話しになり、交渉に入った。

幾つかの障壁はあったもののM氏も以前(社)奈良まちづくりセンターの理事であったこともあり私達の思いを少なからず理解されており、話しは合意の方向へと進んだ。

結論としてこの町屋を自由に改修し、使用できる代わり改修費用を奈良まちづくりセンターが持ち、10年間以上は借りる事、当初から拘わっていたK氏が改修計画に参加する事、等を条件にオーナーのM氏との交渉は成立したのであった。

交渉に前後して、建設省と奈良市からの補助を受けることが出来るのがわかった。これは、建設省地域木造住宅供給促進事業の中の伝統的住宅改修展示事業及び修景補助により総額1400万円の補助金があり、木の生活文化再生システム構築に伴う伝統的な町屋の修理修復のモデル事業として位置つけることが出来、又今回の改修事業を円滑に推し進める絶好の機会を得たのである。

これを受け、理事会ではこの古い町屋をどのような機能を持った場にするべきか、運営はどうするのか、会員の意見をどうくみ取るか、自己資金をどう捻出するのか、又改修計画を誰がどういう方式でまとめるのか等、数多くの難題を解決するべく1993年11月頃より議論を重ね、ようやく1994年9月21日の起工式、着工までこぎつける事が出来た。

この改修計画を進めるに当たり会員より参加を募り建設委員会というシステムを提案、実行、多くの意見や提案をひとつにまとめて行くプロセスは予想どうり多難であったが、やりがいのある作業であり、これは、私達が目指している、まちづくりのプロセスと共通性を感じる。

民主主義と言うのは、その合意を得るまでのプロセスにこそ意義があり、今回のプロジェクト自体が、歴史を生かしたまちづくり、民間主導行政支援型のまちづくりの実践の場となったと言える。

(2) 奈良町物語館企画書

(1994年2月9日 第1回奈良町物語館建設委員会 資料)

< 設立の背景と目的 >

社団法人奈良まちづくりセンターは、約15年前から奈良町の保存・再生運動に取り組んでいる。その間、地域住民への町並み保存意識を高める為に、講演会、シンポジウム、町の歴史展、コンサートなど様々なイベントを展開してきた。

また、奈良町のまちづくりのあり方についての調査研究事業も行ってきた。そういった中で、約8年前には地元の若手によるまちづくり組織(現在の奈良町倶楽部)も生まれている。

ところで、奈良町における町家の改修、改善、建て替え等に関する相談窓口は既に11年前に開設しており、細々ながら相談を受け技術的なアドバイスを行ってきた。

そこで、奈良市の積極的な努力により、都市景観形成地区指定が間近になりつつある状況を踏まえ、奈良町における伝統的木造住宅の修理、修復の事例として既存町家の改修を行い、地域住民に対して町家の改修、改善、建て替え事例等の情報を提供するとともに、技術的なアドバイスを行う相談窓口を持った「奈良町物語館(仮称)～奈良町町家修理・修復センター」を設立したいと考えている。

またその施設は、地域住民や市民、建築技術者、まちづくりグループ等の研修交流サロンの場であるとともに、歴史・伝統・文化を生かしたまちづくりを推進する拠点としても位置付けたいと考えている。

< 主要機能 >

インフォメーション機能

- ・町家の修理、修復事例の展示
- ・町家の改修、改善、建て替え事例などに関する情報提供
- ・建築技術者(大工、工務店、建築家等)への情報提供
- ・まちづくりに関する情報提供
- ・奈良町、大和の観光やイベント等に関する情報提供

相談機能

- ・地域住民への町家の改修、改善、建て替え等に対する技術的アドバイス
- ・まちづくりに関するアドバイス

研修、交流機能

- ・地域住民に対する講演会、学習会等の開催
- ・建築技術者(大工、工務店、建築家等)に対する研修会等の開催
- ・その他、小学生等に対するまちづくり学習事業の実施
- ・まちづくり団体への研修事業の実施
- ・上記の人々および、様々な人々とのサロン交流事業の実施

展示機能

- ・町家の修理、修復事例や町並み等のパネル展示
- ・奈良町に関する歴史、文化情報の展示
- ・絵画、写真、工芸、現代アート等の展示

管理機能

- ・(社)奈良まちづくりセンターの事務局を設置し、上記機能及び施設の管理運営を行う

(3) 奈良町物語館修復記録

<はじめに>

奈良町物語館のプロジェクトは日頃、私達が提唱している、民間主導、行政支援型のまちづくりを推進する上で、センター自らの意見をまとめて行くプロセス自体の内容は言うまでもなく、その開放性が最も重要であり、今回の場合は小規模な一つの建物の改修工事とは言っても、まちづくりを行って行く上での合意形成を始めとするこれらシステムを構築する為の格好のモデルケースとして位置づける事が出来たのではないだろうか。

<基本計画>

今日の改修計画を進めるに当たり、多くの人々の思いを汲取る為にも、会員自らが意識を持ってプロジェクトの部に参加しうるチャンスを設定出来た事は大きな意義があったように思われる。まず最初は、会員や理事からによる基本計画での提案の募集から始まり、それを基に幾度となく理事会が開催され奈良町物語館の基本的な内容の検討が重ねられた。

奈良町の場所性として、例えばその要素の一つとしての都市景観形成地区の指定を踏まえ、設立の背景や目的、そして主要機能、平面計画等、企画書として明確にまとめられ、基本計画の策定がなされたのである。

<コンセプト>

基本的には、奈良町物語館は建設省地域木造住宅供給促進事業の中の伝統的住宅改修展示事業の一環とした、伝統的町家の改修そのものを展示ホする事を主眼としているが、それだけではなく、それと共に5つの主要な機能を有している。

インフォメーション機能

町家の改修やまちづくり、そして奈良町や大和の観光やイベントの情報の提供

相談機能

町家の改修等の技術的な事や、まちづくりのアドバイスを提供する。

研修交流機能

講習会・研修会・交流サロン等の多目的な事業の場。

展示機能

町家の改修等の展示を始めとする多目的な展示機能。

管理機能

奈良まちづくりセンターの事務局と施設の管理を行う。

<建設委員会>

基本計画の策定を受け実施計画に移行する為の特別委員会として、奈良町物語館建設委員会を設置する事となった。委員は選考されるのではなく、会員よりの自由意思でもって委員会への参加を募集したところ、建築家やデザイナー、まちづくり活動家、行政マン等多くの人々が参集した。平成6年2月6日に、第1回建設委員会が開催され、実施に向けスタートした。委員長には建築家の岩崎弘氏が選任され、以後、先生の指導のもと、改修に関する重要事項は建設委員会の決議により進められて行くことになった。その後プロジェクトが進むにつれ、作業の分担を行うべく組織が再編された。今まで通り改修計画を進める設計、監理部門として、筆者を中心とする「建築部会」。それに加え福井清治氏を中心とする「インテリア部会」。及び森井直良氏を中心とする

「記録・イベント部会」を新設し、三つの部会により構成され、構成委員も・奈良まちづくりセンター会員の他にも協力参加して戴き、建設委員会として改修に向け取り組んでいったのである。

< 基本設計 >

建設委員会は理事会により策定された基本計画を基に基本設計に入った。最初、各委員に対して、基本プラン（平面・立面・断面）の提案を募集した所、主に、永山案、田村案、筆者案の3人による提案が提出された。そして第4回建設委員会の席で各案のプレゼンテーションが行われた。その結果、田村案と他の案の良い所、そして理事会による策定案を原形に基本設計を進めて行く事になった。基本設計はプラン提出者の3名を中心に進めて行くことになり、建設委員会を始めとする数多くの意見を調整する作業にはいった。資金計画において、建設省の伝統的住宅展示事業及び奈良市の町並み保存事業により、総額1400万円の補助があり、担当窓口である奈良市計画課を始め、建築指導課の指導を戴き、行政として奈良町での方向性の確認と、建設委員会での論議、試行錯誤と変更作業をくり返し行われ、平成6年6月29日の第7回の委員会にてようやく決定、建設委員会としての基本設計を完了、理事会にて承認され次のプロセスの実施設計へと駒を進めていった。

< 現況調査 >

基本設計の完了に前後して詳細設計、いわゆる実施設計に移行する為、正確に現況を把握する現況建物調査を行った。奈良市教育委員会による調査報告書にも記述されているように、明治初期に建てられ転用古材の使用が多く見られた。例えば一本の柱を何か所も古材を継いでいたり、梁にあっては不必要なほぞ穴が開いていたりした。又、百年あまりの間に増築や改築をくり返し行われた様で建築当初の形態より相当変形されたと思われる。又、柱や梁などの構造材も、細いものが使用されており、老朽化も著しく進行している部分も多数見られた。そして、この場所が元興寺の金堂跡であった関係か、たぶん金堂の柱の礎石であろう大きな石が二ヵ所確認された。

< 実施設計 >

実施設計も、基本設計と同じメンバーにより各作業を分担して行われた。建築全般では改装レベルでの改修に加えて、老朽化の著しい材、梁等の構造の補強方法の検討に力点が注がれた。東西の壁では内側に添柱を建て、新たな壁を内側に附設した他、基本的には既存の軸組を現況保持するよう工夫をこらした設計となった。材料に関して、瓦や木材等、奈良県産材料をできるだけ使用する事を仕様にもり込んだ他、ディテールに関しても伝統的な町家のイメージを損わないよう設計された。建築部会が設計を進めるのに平行して、新たに設置されたインテリア部会が活動を開始した。この部会は展示空間のイメージや照明計画そして、家具等のコーディネートを担当する事となった。基本コンセプトは、奈良町物語館に流れ入る人や情報の流れを、メタファー（隠喩）として「風」をイメージし、それを進める事となった。照明に関しては、松下電工の設備A&Iデザイン室の武林氏のグループによる協力を得て器具の選定が行われた。又、家具については、基本型の収納ボックスを設計し、それを積み重ねる事により、フレキシブルな使用を可能にする、奈良まちづくりセンターのオリジナル家具として作成する事となった。設備設計では、公共的な施設である事により身障者にも考慮したトイレや、町家の冬の寒さに対する一つの提案として、土間部分を、ガス床暖房設備、空調はガスヒートポンプエアコン等、ガスを利用した設計が進められた。

< 施工業者の選定 >

今回、この老朽化した町家を改修するに当たり、多くの人から建直した方が安くつくのではないかと意見が出る程、どれだけの工事と費用が必要か予想が難しかった。そして、このプロジェクトにかかる費用は、建設省と奈良市による補助と、多くの人々や企業のご好意による「かわら寄金」により成立し、当初約2600万円の予算で実行するべく進められていた。施工業者の選定に当っては理事会において、奈良町の場所的な事と、改修工事の実績等を考慮し、前もって2社が選ばれ、指名見積り合せ方式により選考する事となった。補助の関係で、年度内事業というタイムリミットがある為、早急に進めて行かなければならない状態にあり、詳細な設計がされていない基本設計が完了した段階で、2社に私達の予算を提示、簡単な見積りを依頼することになった。結果、一社は私達の思いとは大きく掛離れた金額の見積りが提出され、片や、マスオ建設は私達の予算通りの見積りが提出された。これにより、早い段階で施工業者自身のこのプロジェクトに対する取り組み方、意欲が理解出来たことは、幸いであった。その間に実施設計もほぼ完了し、マスオ建設に特名で正式に見積りを依頼し、ネゴシエーションに入って行った。ネゴの途中、予算に合わず為、仕様等の変更はあったものの、基本設計を変更する事もなく、最終2566万円で決定し、平成6年9月21日の起工式と共に正式に請負契約を結んだのである。

< 改修工事 >

この町家は元興寺の金堂跡に建っていると言う事で、起工式は仏式にしたがい、元興寺住職の辻村泰善氏による祭事が、木原理事長(当時)をはじめ、関係者が参列する中挙行され、着工した。建築部会では、工事監理に関して、永山、田村、筆者の三名により、週に一回は現場を見に行くよう、ローテーションを組み、月に一回は全員と、マスオ建設の施工管理者の阿部氏そして関連業種を集め行程会議を開催する事を定め進めて行くことにした。最初、一部撤去工事が進むにつれ、壁や床板などが剥がされ、この建物の本当の姿が現れるに従い予想した以上に老朽化がひどい状態である事が明らかになり、再度補強に関して検討、西面の壁やその他に関しても添材を建て内側に新しく壁を附設するなどの処置を行った。このような老朽化した町家の改修において、今後何年間かの使用に耐えうる建物にする為の補強は不可欠なものであり、木工事の中でこの補強工事は非常に重要であると共に、それに費やした材料やエネルギーは、相当なものであった。そう言っ中で、木材に関して、吉野の奈良県住宅木材事業協同組合の曾羽理事長により、良質な吉野材を供給され主要な部分は全てこれを使用することになった。そして、請負業者のマスオ建設により、それに対応する優秀な大工等、職人の人的エネルギーを供給いただけた事は、今回の改修工事を完成できた最大の要因でもあった。又、県産材の利用と言う事で、木材に限らず瓦に関して、奈良県瓦センター協業組合の石野瓦工業の協力を得ることができた。そして、今後の取り組みの為に、できるだけ、地元の業者の選定を考え、元請を始めとする、建具、タタミ、設備等地元から多くの協力を得て今回の改修工事を進めた。設備関連では、空調や床暖房のガス設備において、大阪ガス奈良支社の強力な支援により、実現することができた。

< 竣工 >

色々数多くの難題を解決し、工事もようやく完了、1995年3月27日には奈良市計画課による竣工検査。4月7日には建設委員会としての竣工検査を終え、4月21日のオープニングに漕着ける事が出来た。当初、あの古い町家が限られた予算の中でここまで改修できたことは、一つ

の驚きにも似た感動があり、これはたぶんこのプロジェクトに携わった人の一人一人の思いが奈良町物語館の形となり表われているのであろう。そして、明治生れのこの町家は、奈良町物語館と言う新しい生命を吹き込まれ、奈良まちづくりセンターと共に永く生きつづけることでしよう。

<おわりに>

今回の改修工事は多くの人々や企業の協力があつたがゆえ、成し得た事業であり、協力いただいた皆様に深く感謝すると共に今回の経験を町家再生に向け生かして行きたいと考えています。

(4) 奈良町物語館設立を呼びかけていただいた方

青木 はるみ	奈良フォーラム代表幹事、詩人
有山 雄基	奈良県医師会会長
井手 正敬	西日本旅客鉄道(株)代表取締役社長
稲盛 和夫	(財)関西文化学術研究都市推進機構理事長
岩井 洋	前奈良経済同友会代表幹事
岩崎 弘	教育施設研究所相談役
内田 祥哉	(社)日本建築学会会長、木造建築研究フォーラム会長
大川 靖別	奈良市長
加留 博	(社)経済同友会常務理事
川上 哲郎	歴史街道推進協議会会長
川上 正平	景観材料推進協議会代表、新日軽(株)代表取締役会長
喜多 俊之	デザイナー
北村又左衛門	奈良県森林組合連合会会長
絹谷 幸二	画家
国友 正道	奈良交通(株)代表取締役社長
堺屋 太一	作家
坂本 道隆	(株)南都銀行頭取、奈良県経営者協会会長
坂本 龍兒	奈良商工会議所会頭、奈良県商工会議所連合会会長
狭川 宗玄	東大寺長老
下河辺 浮	東京海上研究所理事長、元国土庁事務次官
鈴木 嘉吉	前奈良国立文化財研究所所長
千田 稔	奈良フォーラム代表幹事、奈良女子大学教授
多川 俊映	興福寺住職
田代 和	近畿日本鉄道(株)代表取締役社長
田中 一光	グラフィックデザイナー
田中 太郎	(株)近鉄百貨店代表取締役社長
田中 琢	奈良国立文化財研究所所長
辻村 泰善	元興寺住職
土井 実	奈良国立文化観光都市建設審議会会長、奈良市文化財保護審議会会長
西田 栄三	(財)ならまち振興財団理事長
播患 靖夫	(財)たんぼほの家理事長
平岡 定海	東大寺管長

堀井 良殷 前NHK文化センター専務取締役
 前川 昭一 (財)和敬塾塾長 前川産業(株)相談役
 前田 哲郎 (社)奈良県経済倶楽部会長、(社)奈良市観光協会会長
 三谷 鐵男 関西電力(株)奈良支店長
 森本 清一 橿原商工会議所会頭
 森本 哲夫 (財)新世代通信網利用高度化協会理事長、元郵政省事務次官
 安田 暎胤 薬師寺執事長
 山本 信書 奈良国立博物館館長
 領木新一郎 大阪ガス(株)代表取締役社長

(5) かわら寄金に協賛していただいた方

東 加代子	榛原町	押谷 茂敏	愛知県	長谷川 久	生駒市
迎田 允武	兵庫県	山本 陽一	五條市	芥 忠孝	三郷町
徳田 勝行	奈良市	池田 慎久	奈良市	藤内 靖久	大阪府
田中 宏一	奈良市	今瀬 政司	大阪府	竹本 勲生	下市町
木原 勝彬	奈良市	森井 直良	奈良市	太田 浩明	奈良市
森光 幸生	生駒市	林 啓文	奈良市	河野 俊一	奈良市
神田 章太郎	兵庫県	佐野 章二	大阪府	坂上 光一	京都府
藤野 正文	京都府	中村 ひろみ	天理市	水田 典生	奈良市
濱 博一	石川県	平本 治男	生駒市	古川 俊男	奈良市
高山 実子	大阪府	武居 弘泰	東京都	小山手美昭	奈良市
室 雅博	奈良市	余頃 明	奈良市	大平 康之	桜井市
黒田 公子	奈良市	淡野 明彦	奈良市	田中 倉平	大和郡山市
遊 中川	奈良市	島田 洋子	大坂府	八鳥 浩二	奈良市
(株)都市問題経営研究所		久米 智子	兵庫県	堀内 祥悟	奈良市
	大阪府	佐藤 公一	奈良市	竹中 史郎	橿原市
黒田 睦子	大和郡山市	江崎 哲	奈良市	中西 恵俊	橿原市
上嶋 晴久	大和高田市	安井 正喜	奈良市	北村 敏宏	大淀町
岡田 尚之	奈良市	二十軒起夫	田原本町	今崎 和民	京都府
竹内 邦雄	大阪府	辻本 長彦	奈良市	國友 正道	生駒市
玉置 喜章	福岡県	岡本 武夫	奈良市	山口 浩	大坂府
中村 浩一	大阪府	坂本 泰成	兵庫県	工一儿学園	大坂府
中井 孝和	奈良市	森野 真一	三重県	堺 由美	兵庫県
桂 良太郎	奈良市	飯田 美智子	奈良市	井上 康二	橿原市
木下 元	兵庫県	山内 浩子	奈良市	吉羽 裕子	大阪府
立花 浩	兵庫県	川端 モト子	大和郡山市	坂口 彰	吉野町
斎田 弘	兵庫県	岩井 一郎	大阪府	吉岡 郁洋	奈良市
小高 音松	大阪府	岩見 徹	兵庫県	田中 和市郎	天理市
安川 喜蔵	奈良市	羽山 宏	橿原市	北田 良嗣	天理市
長谷川 博	奈良市	奥村 博由	奈良市	尾崎 晃	三郷町
森 啓	京都府	後藤 昌久	奈良市	田村 公位	奈良市

三浦 敏男	桜井市	小林 郁雄	兵庫県	酒井 憲一朗	石川県
佐藤 俊治	橿原市	森井 直矢	奈良市	小西 万里子	石川県
山植 茂	生駒市	森井 直之	奈良市	木戸口征子	石川県
北森 敏幸	三重県	森井 由紀子	奈良市	高井 郁久	石川県
中尾 浩幸	三郷町	西邨 智雄	大阪府	盛一 悟	石川県
井上 太	橿原市	森川 裕一	生駒市	高桑 敏夫	石川県
植田 勝利	奈良市	吉田 光宏	奈良市	山田 洋子	石川県
藤木 伸秀	大和郡山市	若林 清	奈良市	内田 俊夫	石川県
中井 正	桜井市	中川 恵勝	天理市	上坂 典子	石川県
中村 憲児	大和郡山市	奈良県中小企業家同友会異業		牧野 宏	石川県
亀井 邦夫	橿原市	種交流委員会	奈良市	笹原 忠義	石川県
田中 孝男	橿原市	菊池 攻	田原本町	野村 未来子	石川県
藤井 志喜央	三宅町	倉橋 俊朗	奈良市	中側 史朗	石川県
樋口 順一	奈良市	坂本 泰成	大和高田市	村上 利温	石川県
佐々岡邦夫	奈良市	嘉積 俊一	東吉野村	大家 陽一	石川県
木村 政夫	奈良市	黒田 美都子	大和郡山市	塩崎 賢明	京都府
島 利一	吉野町	寺西 詔子	大阪府	松井 義武	広島県
放示 和彦	京都府	本田 順子	大阪府	田中 健治	大阪府
勝村 耕平	室生村	星板 文子	大阪府	岩井 ゆき子	大阪府
南田 昭典	室生村	倉松 数美	大阪府	世古 一穂	東京都
桂 美奈子	奈良市	安田 順恵	奈良市	田中 一光	東京都
山下 信幸	三重県	上野 忍	奈良市	Brand Shaw	USA
植田 佳代子	大和郡山市	田中 一光	奈良市	Jim Nelson	USA
星野 允	月ヶ瀬村	北川 泰三	東京都	山崎 博司	奈良市
大武 健一郎	東京都	河田 久治郎	奈良市	岩崎 弘	奈良市
井田 壽一	三重県	徳田 美津子	奈良市	植田 秀美	奈良市
安田 正	兵庫県	井上 勇	奈良市	田村 俊	大和郡山市
松尾 一廣	大坂府	紙田 直子	奈良市	南 宗憲	下市町
高松 義直	奈良市	今来 俊雄	大阪府	堺屋 太一	大阪府
鈴(中尾)	奈良市	森下 賢治	奈良市	酢谷 一三	大和郡山市
西山 恵三	大和郡山市	向野 幾世	奈良市	増井 正哉	奈良市
梅屋 則夫	奈良市	林 泰義	東京都	稲本 悦三	東京都
平松 正行	奈良市	四尾 泰	石川県	金井 萬造	滋賀県
中村 武嗣	奈良市	稲垣 道子	東京都	有山 雄基	生駒市
横井 紘一	奈良市	田淵 康裕	奈良市	吉田 礼子	大和郡山市
米村 博昭	橿原市	永島 福太郎	奈良市	黒田 昌康	奈良市
今田 忠	東京都	山岡 義典	東京都	松山 隆	奈良市
稲田 紀男	大阪府	辻村 泰善	奈良市	井生 文隆	奈良市
宮本 考二郎	三郷町	飯田 恵一	大和郡山市	戌亥 弘	香芝市

松本 孝徳	奈良市	中田 博一	大阪府	森口 ミサ子	奈良市
北条 蓮英	奈良市	仲川 順子	平群町	上田 利英	東京都
田島 芳枚	橿原市	サロンハヤシ	奈良市	松山 將壯	大阪府
中川 昌代	奈良市	奈良オリエント館	奈良市	吉岡 克己	東京都
平本 治男	生駒市	吉川 恵子	大阪府	今川 啓二	橿原市
奈良町倶楽部	奈良市	飯田 幸子	大和郡山市	関学コンサルタント倶楽部	
西浦 正翁	斑鳩町	飯田 悦子	大和郡山市		大阪府
高橋 秀美	奈良市	栗林 二三夫	奈良市	井上 昭夫	天理市
小鹿原とし子	大和郡山市	㈱きんでん奈良支店		平尾 桂世	生駒市
上田 真砂子	奈良市		奈良市	足立 勝美	京都府
廣谷 顕一	三郷町	前田 哲郎	生駒市	足立 佳子	京都府
田中 理節	奈良市	平野 正樹	東京都	岡崎 篤行	東京都
松村 せつ子	奈良市	中村 利文	奈良市	井上 康男	熊本県
日比 滋子	奈良市	中村 文子	奈良市	米倉 徹	熊本県
井上 ヨシ子	奈良市	田中 千賀子	生駒市	村田 幸博	熊本県
辻 正博	高取町	倉本都市建築㈱ ㈱ラトリ		徳田 有友子	奈良市
林 健蔵	奈良市		奈良市	徳田 泰史	奈良市
㈱かんこう馬場	大阪府	阿部 正道	大和郡山市	徳田 書久子	奈良市
ぎゃらりー美田	奈良市	㈱久保都市計画事務所		ミズプランニング	
今谷 康夫	奈良市		大阪府		生駒市
木原 英子	奈良市	徳田 あつ子	奈良市	前川 昭一	東京都
㈱いそかわ	奈良市	宮島 豊美	長野県		

(6) 互基金(竹筒設置)にご協力いただいた方々

裏 宗久 室山和彦 川上大前 風来坊 COMO 喜納 月吠 恵方
 鶉屋 増尾建設 余頃 明畑 豊廣 サマサマ 四季亭 (財)ならまち振興財団
 山本陽一 上嶋晴久 中村武嗣 森井直良 田中宏一 田村 俊 永山浩一 他

(7) 奈良町物語館設立にご寄付をいただいた企業

学校法人 エール学園	近畿日本鉄道株式会社	大和ハウス工業株式会社
西日本旅客鉄道株式会社	大阪ガス株式会社	株式会社近鉄百貨店
奈良県森林組合	日本電装株式会社	関西電力株式会社
三和澱粉工業株式会社	奈良交通株式会社	松下電工株式会社
キリンビール株式会社	シャープ株式会社	株式会社南都銀行

(8) 奈良町物語館建設協力事業者リスト

元 請	マスオ建設株式会社	富田 宏・阿部貞一
撤去工事	清水土木	吉原正和
石工事	奥田石材店	今中喜吉三・中島真兵

タイル工事	西奈タイル	松井雄司
木工事	深田工務店	深田喜太郎・井岡良行・小谷春雄
木材	そわ木材株式会社	曾羽 豊
竹材	竹政竹材店	光橋三郎
屋根工事	石野瓦工業株式会社	内田文治
金属工事	中辻正板金金属興業株式会社	今西重隆・富田栄一
左官工事	宮木博美	宮木博美
木製 建具工事	小南吉彦商店	小南吉彦
表具	中島表具店	中嶋芳信
ガラス工事	久保ガラス店	久保次郎
塗装工事	梅林總介	梅林總介
内装工事	田中公栄堂	宮崎三千夫
畳工事	梅尾畳本店	梅尾幸司
洗い工事	安達也夫	安達也夫
電気設備工事	吉田電気商工株式会社	南 健蔵・山中 勉
照明器具	松下電工株式会社	竹林進平・平野豊明・杉山雄治
給排水設備工事	菊池設備	菊池正嗣
ガス冷暖房工事	大阪ガス株式会社奈良支店	中嶋 正
ガス冷暖房工事	株式会社学園前ガスセンター	中嶋幸蔵

(9) 奈良町物語館、建設委員会メンバー

委員長	岩崎 弘 (奈良市)
建築部会長	上嶋 晴久 (大和高田市・HULL 建築設計)
	植田 秀美 (奈良市・SER 建築事務所)
	勝村 一郎 (奈良市・勝村建築事務所)
	田村 俊 (大和郡山市・田建築設計)
	永山 浩一 (京都府・建築設計工房 恵)
	山崎 博司 (田原本町・出口工務店)
記録係 外部会長	森井 直良 (奈良市・農村都市総合計画室)
	横井 鉦一 (奈良市・株式会社 TAD)
	田中 宏一 (奈良市・鶉屋)
	藤野 正文 (京都府・奈良県庁)
インテリア部会長	福井 清治 (大坂府・(有)フォルム・ア-キ外)
	中崎 宣弘 (兵庫県・NOBU デザイン)
	渡部 実津 (生駒市・ミズ・プランニング)
	長谷川武宏 (瀬戸市役所)
オフザ - バ -	松山 隆 (奈良市・株式会社松山)

(1 0) 奈良町物語館、運営委員会メンバー

委 員 長 中村 武嗣 (奈良市・道馬軒写真館)
 辻本 長彦 (奈良市)
 田中 宏一 (奈良市・鶉屋)
 森井 直良 (奈良市・農村都市総合計画室)
 畑 豊廣 (斑鳩町・イベントデザイナー)
 杉村 仁 (奈良市・高円高等学校)
 山村 英夫 (奈良市・ワイズ建築デザイン事務所)
 中崎 宣弘 (神戸市・NOBU デザイン)
 清水 信夫 (奈良市・有限会社まほろば)
 足立久美子 (京都府・奈良町物語館)

(1 1) 奈良町物語館に補助 (支援) をいただいた行政

奈良市都市計画部都市計画課
奈良県土木部住宅課
建設省住宅局木造住宅振興室

(1 2) 奈良町物語館設立事業収支

1996/12/1

収入		支出	
個人寄付合計	3,634,287	改修工事費合計	33,278,464
		本体工事	24,360,122
企業寄付合計	22,410,000	設備工事	6,478,342
大阪ガス	3,000,000	電気設備	1,600,419
関西電力	3,000,000	給排水設備	1,550,419
近畿日本鉄道	3,000,000	ガス設備	2,549,854
シャープ	3,000,000	照明設備	777,650
南都銀行	3,000,000	設計・監理費	2,440,000
西日本旅客鉄道	3,000,000		
大和ハウス工業	2,000,000	企画・製作費合計	5,186,830
近鉄百貨展	800,000	ビデオ	1,500,000
三和澱粉工業	500,000	絵本	1,500,000
奈良県森林組合連合会	300,000	物語館パンフ	1,000,000
奈良交通	300,000	パネル	885,330
奈良県木材協同組合連合会	250,000	オープニングイベント	301,500
日本電装	200,000		
エール学園	60,000	その他費用合計	4,143,402
		工事中の家賃	900,000
行政補助金合計	16,400,000	瓦基金パンフ	99,704
奈良市・建設省(改修補助)	14,000,000	写真・ビデオ	144,020
奈良県(ビデオ・パネル・絵本)	2,400,000	什器・備品	855,547
		音響設備	309,000
竹筒寄付	108,824	電話工事	334,750
		通信費	118,670
オープニング寄付	290,000	謝金	135,555
		消耗品	220,569
利息	10,202	物語館・センターパンフ	671,560
		のれん	123,654
		報告・通信費	187,500
		その他	42,873
		まちづくり基金(修繕費等に使用)	244,617
	42,853,313		42,853,313

(13) まちづくり活動拠点(奈良町物語館の現状)

奈良町物語館の当初の目的は(2)奈良町物語館企画書で記述したように、奈良の歴史的町並みを構成している町家や民家の修理、修復、修景に関する技術情報の提供、相談等を主眼とする、修理修復センターをイメージしたものであったが、オープン以降、(社)奈良まちづくりセンター本来の活動目的に則した使用に加え、利用者や地元奈良町のニーズに応える形で自主事業、貸館事業とも、当然のごとく変化して行った。

展示、インフォメーション

修理、修復の模範としての建物やパネル展示から始まった展示ギャラリーについては、絵画、陶芸、木工、写真等の芸術家や工芸作家の発表の場として定着してきており、若手芸術家の作品展など毎年恒例に行なわれるものも出てきた。自主事業として近年より毎月開催されている手作り市「手作りの辻子」についても盛況を博している。

コンサート、文学講座、セミナー

オープニングでフルートによる演奏が行なわれたのが最初のコンサートだが、その後単発的に民族音楽やギター同好会等によるコンサートが開催されていたが、近年になって、室内管弦楽等のコンサートが定期的に企画されるようになった。連続講座については、こうげい夜咄、物語館文学講座、伝承文化講座、住まいづくりセミナー等が、「遊」文庫(奈良町物語館に出来た組織)の読書会等、開催される文化活動拠点となっている。

地元イベント

ならまちわらべうたフェスタをはじめ、中新屋町の灯りの小径、カクテルバー中新屋等、地元自治会の寄合やイベントに活用されている。特に、中新屋町の庚申講は2ヶ月に1回開催されているが、以前は各家が順番に担当していたものが、奈良町物語館で開催するようになって、各家の負担が軽減されたと言うことである。地元住民にとって、近くで自由に使えるまちづくり拠点があるのは大きなメリットと言える。

研修、交流

1995年4月の開館以来、全国各地から研修の目的で奈良町にこられ、(社)奈良まちづくりセンターの活動を聞くため、奈良街物語館で、研修を希望する団体が多い。開館の年10月に開催されたアジア・西太平洋都市保全ネットワーク(AWPNUC)による「まちづくり草の根国際シンポジウムIN NARA」をはじめ、海外のまちづくり団体との交流や、県内のまちづくり団体でつくる「大和まちづくりネットワーク」との交流、地元奈良町で活動している団体が集まる「わいわい花見会」、中新屋自治会、奈良町物語館サロン等、交流の拠点と言って良い。

ラーニングコミュニティ、学生活動

奈良教育大学と共同による奈良町探検隊や学生による卒論発表会、奈良県立大学のインターンシップ、奈良女子大学による奈良町物語館の実測演習等、ラーニングコミュニティという概念が生れてきた。学校内での勉強だけではなく、町や町の人々とふれあい、歴史を学び、若い時からまちづくりを学ぶ課外活動の拠点となっている。



奈良町物語館



作品展示



コンサート



文学講座



カクテルバー中新屋



サロン



交流



学生イベント

このように、(社)奈良まちづくりセンターが主催するまちづくり活動や、貸館利用者による奈良町物語館の活用については、奈良町の中心であり、地理的な条件に恵まれていると言うだけではなく、行政や他の民間が管理運営する、公民館やギャラリー等にはない、何かしらの魅力があるのであると思う。奈良町の伝統的な町並みを維持し、町家の伝統を生かした形での改修は奈良町の景観とアイデンティティを保持し、奈良町らしい受け答えや運営により、奈良町に訪れた人々や住んでいる人々の無意識の感覚において受け入れられているように思われる。

(14)まちづくり活動拠点の例

奈良県内において、町家を修理、改修をして、商業的な活用をした例は多く見られるが、まちづくりの拠点として整備された施設はまだ少ない。

奈良町物語館(奈良市中新屋町)	管理:(社)奈良まちづくりセンター
夢創館(高取町土佐)	管理:高取町観光協会
今井まちづくりセンター(橿原市今井町)	管理:今井町町並み保存会
箱本館「紺屋」(大和郡山市紺屋町)	管理:大和郡山市観光協会
松山地区まちづくりセンター(大宇陀町拾生)	管理:大宇陀町教育委員会
まちなみ伝承館(五條市本町)	管理:五條市

この中で、奈良町物語館だけが唯一純粋な民間施設で、他は建物自体の施設管理は行政が管理している。夢創館と今井まちづくりセンター、松山地区まちづくりセンター(愛称:千軒舎)、まちなみ伝承館の4施設については、国土交通省の街なみ環境整備事業により事業計画されたもので、地域住民が管理運営しており、使用頻度も高い。箱本館「紺屋」については、金魚ミュージアムと藍染め体験工房という側面を持っており、地元観光協会が運営管理している。

町家の改修例ではないが、地域の集会所として他の用途の施設と併設している例として、奈良市音声館や葛城市の相撲館「けはや座」等比較的多く存在し、これらは、地域住民が集会所部分だけの自主管理を行ない、行政が全体の施設管理を行なっている。今後、行政が管理している施設の運営管理を地域NPOに対して委託することにより、自主的な運営を可能にし、地域に根ざした本当の意味でのコミュニティの形成と活発な活動を促進、下記機能を持つ「まちづくり活動拠点」を創造する民間活力を呼び起こす原点になろう。

- NPOや任意のまちづくり等団体の活動拠点(まちづくり活動団体の育成)
- まちづくり情報センター(市民参加、人材育成、景観、調査、研究、ネットワーク)
- 地域福祉活動拠点(介護サービス、子育て支援、作業所、宅老所、ボランティア)
- 地域防災活動拠点(防災計画、防災訓練、情報ネットワーク)
- 地域振興活動拠点(空家、空店舗、イベント情報、企画提案、祭り)
- 地域教育活動拠点(ラーニングコミュニティ、人権教育、生涯教育)

まちづくりの拠点「奈良町物語館」

企画～現状「まちづくり活動拠点」

2004年10月

(社)奈良まちづくりセンター 理事 上嶋晴久